

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材3厘 20kg/紙袋
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン
 模様塗り スタックガン
 模様付け プリーツローラー (リブ幅5mm)

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考	
					工程内	工程間		
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等	
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ	
	清水	吹付け塗り						1~2kg
		コテ塗り						0~0.5kg
模様塗り	グラナダF	20kg	2.5~3.0	1	-		スタックガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa	
	専用骨材3厘	10kg						
	清水	0~0.5kg						
パターン 付け	凹凸状吹放し後、塗シを付けたプリーツローラーを横方向に重ねながら転がし、ランダムにひだ状意匠付けをする。					追っかけ 模様付け	プリーツローラー	
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-	直後又は 乾燥後		
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上		

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

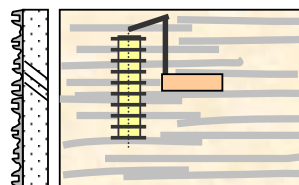
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ② 主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を凹凸吹き放しで吹き付ける。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。凹凸状吹放し後、プリーツローラーに塗シを付けて横方向に重ねながら転がし、ランダムにひだ状意匠付けをする。
- ② プリーツローラーの転がし間隔、重ね程度、ランダムさなどにより仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておく。
- ③ 表面皮張りが早い場合、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ 標準意匠は、凹凸吹き放し部分が多少残る以外は、全て密にひだが重なりあった意匠。
- ⑥ ひだの跡は、ラフにランダムに付けていくようにする。
- ⑦ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。